

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 25 日現在

機関番号：12605

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21580265

研究課題名（和文）東アジアの食料安全保障の地域協力に関する研究

研究課題名（英文）Research on Regional Cooperation for Food Security in East Asia

研究代表者 豊田 隆（TOYODA TAKASHI）

東京農工大学 大学院農学研究院 教授

研究者番号：00142836

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本政府による東アジアの食料安全保障をめざす地域協力のプロセスとして、東南アジア諸国連合・ASEAN+3 緊急米備蓄（APTERR）と食料安全保障情報システム（AFSIS）の現状と展望を解明する。APTERR は 13 ヶ国間の共同米備蓄と米放出機構（Tier1,2,3,PAME）を構築した。AFSIS は食料情報ネットワーク（EWI,ACO）と人材開発のための相互技術協力（MTC）を構築した。食料安全保障をめぐる東アジア地域協力の地道な努力は、貿易自由化と農業協力をバランスさせる農業経済連携協定（EPA）戦略と合致する。我々は「食の安全性」を含む東アジア共通食料安全保障政策（EACFSP）を提言する。

研究成果の概要（英文）：This research analyses the current state and prospect for the ASEAN Plus Three Emergency Rice Reserve (APTERR) and ASEAN Food Security Information System (AFSIS) launched by the Japanese government as part of regional cooperative efforts for food security. APTERR constructed common rice reserve and rice release mechanisms (Tier1,2,3 PAME) among 13 countries. AFSIS established food information network (EWI,ACO) and mutual technical cooperation (MTC) for human resource development. Ongoing efforts to strengthen regional cooperation on food security issues are in line with agricultural EPA strategies focusing on a balanced combination of trade liberalization and agricultural cooperation. We should advance East Asian Common Food Security Policy (EACFSP) including food safety.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：農業経済学、国際地域開発政策学

科研費の分科・細目：農業経済学・農業経済学

キーワード：国際農業、食料安全保障協力、ASEAN+3（日中韓）、東アジア緊急米備蓄（APTERR）、ASEAN 食料安全保障情報システム（AFSIS）、農業経済連携協定（EPA）、東アジア共通食料安全保障政策（EACFSP）、食料安全性協力

1. 研究開始当初の背景

(1) 2008年以降の世界食料同時危機は、地球温暖化、新興国の穀物需要、バイオ燃料の転換により在庫率が低下し、投機ファンド参入と輸出国の輸出規制により価格が高騰し、後発途上国・脆弱地域の食料不安が生じた。FAO等の国際機関は食料安全保障の確立を緊急課題とした。

(2) 食料安全保障の国際協力の緊急性の中で、東アジアのフードセキュリティ協力に関する研究は立ち遅れていた(今村・大庭・八木等の国際備蓄・地域協調論等)。

(3) そこで研究代表者は、アグリビジネスの国際化、世界のフードシステム、国際農業政策研究を踏まえ、国際アジア共同体学会と連携して「東アジア・フード・セキュリティ研究会」を組織し地域協力研究に着手した。

2. 研究の目的

本研究では次のテーマを主要目的とした。

(1) 東アジアのフードセキュリティを地域協力によって確立するために ASEAN+3 (日中韓)の農林大臣会合(AMAF+3)で合意された、災害・飢餓対応の食料備蓄を目的とした **EAERR (東アジア緊急米備蓄機構: 04年~)** のパイロット・プロジェクトの機能と備蓄・放出の実態、及びその展望を解明する。EAERRは、研究期間中に、ASEAN+3緊急米備蓄(APTERR)へと改称され、国際法に基づく条約の機構へと再編された。

(2) 東アジアにおけるフードセキュリティの地域協力の第二の柱であり、ASEAN+3(日中韓)で情報を共有し、食料危機へ機敏に対処するための、食料安全情報保障を整備する **AFSIS (ASEAN食料安全保障情報システム: I期03~07年、II期08年~)** に注目し、その展開実績と将来展望を解明する。主要穀物に関する情報ネットワークの開発状況と後発途上国における情報処理人材の育成協力の到達点を解明する。

(3) 日本政府は、EAERR・AFSISに対し、財政・農水省と技術協力・JICAの支援を継続的に実施し、二国間協力を超えて、東アジアにおける **食料安全保障の多国間の相互協力・「地域協力」** の貴重な経験である。その拡充方向を究明し、ASEANが構想する AIFS (ASEAN 統合的食料安全保障) と調和する、東アジアの共通食料安全保障政策(EACFSP)を提言することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 国際関係論のシーチェンジ・情報革命・地域安保理論、及び国際機関FAO・WFPと援助機関JICAの理論仮説、食料の

入手可能性、食料配分、食料摂取、食料統治権の概念、食料・農村支援戦略を踏まえ、食料安保の地域協力視点を構築した。

(2) 東アジア・フード・セキュリティ研究会を主催し、国内外から専門家や研究者を招聘し、地域協力の論点を明確化した。

(3) 日本政府・各国政府や国際機関の担当者へインタビューを実施し、先進国から拠点途上国、後発途上国の備蓄協調政策、情報・知識を移転する地域協力プロセスを解明した。

(4) EAERR・AFSIS 参加国を対象に、拠点国タイ事務局、食料不安地域・島嶼部を抱えるフィリピン担当部局、ラオス山岳地域ビエンチャン県バンキ村、カンボジア僻地地域タケオ県ポンチャンテム村の現地調査を行った。地域協力の展開が、現地の行政機構と受益農民へ受容されているのかを検証した。

4. 研究成果

(1) 東アジア緊急米備蓄(EAERR)の備蓄と放出の基本構造を解明した。①申告米備蓄は加盟13カ国のすべてが申告し、78.7万MTを構築した。申告備蓄約80万MTの構築は、当初に計画した参照基準量を達成しており、一応パイロット事業の使命を終えたと評価しうる。②日本政府寄贈等による現物備蓄米の多様な放出機構が創出されたと評価できる。日本の現物緊急米備蓄の放出の合計量は、1,512MTに達し、加盟各国へ配分された。③米放出の実態を、フィリピンにおけるティア1・ティア3、及びラオスにおける貧困削減・飢餓克服PAMEプログラムを中心に、現地フィールド・サイト調査に基づいて究明した。その意義と限界を明確にした。④EAERRは新しい「ASEAN+3緊急米備蓄(APTERR)」へ移行した。その歴史的地平をAERRからEAERRへ、さらにAPTERRへという流れの中で把握した。限界面を踏まえ、制度的・技術的・財政的な観点から、現段階の転換方向を考察した。

(2) AFSISの到達点を解明した。①人的資源開発を行い、拠点国タイへの二国間協力とAFSIS広域協力により情報処理人材を育成した。後発国とのペア化による「南・南協力」により技術移転の伝播力を高度化した。②農産物情報ネットワークを構築、後発途上国の「右肩上がり」統計を是正し、統計精度を向上した。③食料安全保障の分析ツールである早期警戒・自給率・安保率を創造し、地域の安全保障情報を創出した。④今後の情報集積・公表の強化と東アジア共通農業政策を共同設計する企画調整組織として、AMAF+3の恒常的事務局の設置を提案した。

(3) 東アジア共通食料安全保障政策 (EACFSP)の提言として、①食料安全保障とバイオエネルギー政策の均衡ある発展のための平衡2原則を示した。②食料・環境・エネルギーを統合する政策を提案した。③共通食料安全保障政策の共通基盤である零細農業と米の重要性、共同体基盤組織の意義を確認した。④農産物貿易政策の鍵となる「アジア共通重要品目」と各国農業の共存、アジア共通市場の創出を構想した。⑤農業の担い手を育成する構造調整の多様な手法を検討した。⑥貿易自由化から受ける利益を原資とした東アジア共通農業政策のため、アジア諸国の拠出による共通基金・共通通貨の構築に注目した。⑦食料輸出国の食料輸出規制と食料市場の投機資金参入制限のルール化を提言した。⑧食品安全性の地域協力は、Codex委員会の地域部会の拡充、及びアジア生産性機構 (APO) の食品認証の技術協力が注目される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

(1) Khal Mohammad Ahmazai, Takashi TOYODA, Food Security and Rural Poverty in Afghanistan: A case study of Agricultural and poverty level in Takhar province of Afghanistan, 『農業経営研究』査読有、第50巻第1号、pp130-135, 2012

(2) 豊田 隆 「ASEAN 食料安全保障情報システム (AFSIS) の現状と展望」(『開発学研究』査読有、第22巻第2号、pp37-43, 2011.

(3) Takashi TOYODA ” Environmental Taxes and Agriculture in the European Union and the Netherland” Journal of Environmental Science and Engineering, 査読有、Volume 5, Number 5, Illinois, USA, May 2011 pp626-630,

(4) 豊田 隆 Food Security Cooperation and Common Agricultural Policy in East Asia, 『国際アジア共同体ジャーナル』、査読有、第2号、ISAC, pp87-99, 2010

(5) Suneeporn SUWANMANEEPONG, Takashi TOYODA, “Assessing the Impact of Environmental Regulations on Swine Production -A case Study of Swine Farming in Nakhon Pathom Province, Thailand-” 『農業経営研究』査読有、第48巻第2号、pp161-166, 2010

(6) チュウ チョン シヤン・豊田 隆 「インドネシアにおける農村のエネルギー持続可能な開発-中部ジャワ州における「エネルギー自立農村」の事例-」(『開発学研究』査読有、第21巻第1号、2010、pp26-34)

(7) 豊田隆 「東アジアにおけるフード・セキュリティの地域協力-東アジア緊急米備蓄 (EAERR) と ASEAN 食料安全保障情報システム (AFSIS) の経験-」(『2009年度日本農業経済学会論文集』査読有、2009、pp475-482)

[学会発表] (計9件)

(1) Takashi TOYODA and Opal Suwunnamek, Regional Cooperation for Food Security in East Asia: From Rice Reserve APTERR and Information System AFSIS to Common Agricultural Policy, 7th Asian Society of Agricultural Economists (ASAE) International Conference, 13-15 2011, Hanoi, Vietnam

(2) Khal Mohammad Ahmazai, Takashi TOYODA, Food Security and Rural Poverty in Afghanistan: A case study of Agricultural and poverty level in Takhar province of Afghanistan, 『日本農業経営学会研究大会』三重大学農学部、2011年9月11日

(3) Byambaa OYUNTUYA, 豊田 隆 「多国籍アグリビジネスによる農業開発-モンゴル国カシミア産業の価値連鎖分析」、『日本農業経営学会研究大会』三重大学農学部、2011年9月11日

(4) 豊田 隆 「東アジア緊急米備蓄 (EAERR) の米備蓄・放出の構造」 『2010年度日本農業経済学会大会・個別口頭報告』2010年3月28日京都大学

(5) Takashi TOYODA, " Proposal for Common Food Security Policy in East Asia" The Network of East Asian Think Tanks (NEAT) Working Group on East Asian Food Security, JFIR, 2009年(国際会合 (ASEAN+13 カ国代表者会議, 「東アジア・シンクタンク・ネットワーク The Network of East Asian Think Tanks (NEAT)」 「食料安全保障作業部会」主催: 日本国際フォーラム (JFIR), 東京、外務省)

(6) 豊田 隆 「東アジア食糧安全保障を創る: コーディネーター報告」 『国際アジア共同体学会』国際シンポジウム 『東アジア食糧環境エネルギー共同体を創る』第1部 「東アジア食糧安全保障を創る」, 早稲田大学井深記念ホール, 東京、2009年3月8日

(7) Sidik, Mulyo, Yihong Zheng, Takashi TOYODA " Structure and Prospect of East

Asia Emergency Rice Reserve (EAERR)" 日本国際地域開発学会個別報告, 近畿大学農学部, 2009年11月28日

(8) Suneeporn SUWANMANEEPONG, Takashi TOYODA " Environmental Regulations to Control Wastewater from Swine Farm-An Analysis of Their Impacts on Swine Production in Thailand-"October 26-27, 2009, Manado, North Sulawesi, Indonesia

(9) Chew Chong Siang, Takashi TOYODA "Biofuel promotion as a rural energy development policy in Indonesia " R'09 Twin World Congress- Resource Management and Technology for Material and Energy Efficiency-名古屋大学・Davos (Switzerland) 2009年9月16日

〔図書〕 (計2件)

(1) 豊田 隆 「農業EPAが加速する経済統合」 国際アジア共同体学会編進藤榮一監修 『東アジア共同体と日本の戦略』 (桜美林大学北東アジア総合研究所、2011年) 所収、pp64-66

(2) 豊田 隆 「東アジア・フード・セキュリティの地域協力」 (平川均・小林尚朗・森本晶文編 『東アジア地域協力の共同設計』 明治大学軍縮平和研究所, 西田書店, 2009年, pp231-246)

〔その他〕

ホームページ等

(1) 豊田 隆「東アジア・フード・セキュリティ研究会」の主催 (科学研究費補助金「東アジアの食料安全保障の地域協力に関する研究」(研究代表者：豊田 隆 2009～2011 年度) により開催)

(2) 豊田 隆「農業 EPA 戦略テコに経済統合加速-知識基盤型の国際貢献担う」「ゼミナール東アジア共同体構築と日本の役割」『日刊工業新聞』2010年5月12日

(3) 豊田 隆「WTO・EPA 推進に向けたわが国の課題と対応策」日本経済団体連合会『月刊・経済 Trend』「特集：これからの農業を考える」所収,2009年6月号、pp42-43

6. 研究組織

(1) 研究代表者

豊田 隆 (TOYODA TAKASHI)
東京農工大学 大学院農学研究院 教授
研究者番号：00142836

(2) 研究分担者

竹内郁雄 (TAKEUCHI IKUO)
東京農工大学 大学院農学研究院 准教授
研究者番号：90313288

山田祐彰 (YAMADA MASAOKI)
東京農工大学 大学院農学研究院 講師
研究者番号：60323755

(3) 連携研究者

なし

